

# 第二回リスナー参加型

## 天下一学問会

### 高校レベル

### 解答解説

## 古典（古文・漢文）

作問者…いーんちよ

問題数…大問二問

記述式

解答時間…六十分

## 古典問題

### 第一問

#### 口語（現代語）訳

(ア) こうしているうちに、男ども六人が連なつて庭に出てきた。一人の男が、文挾ふばさみに手紙を挟んで申し上げる。「作物所の寮の匠つくものじろう、漢部内磨つかまが申すことに、『珠の木をお作り申し上げたこと、心を砕いて、千日余りにわたつて力を尽したことは並大抵ではない。それにもかかわらず、報酬をいただいております。これをいただき分けて、家の者にも与えさせたい』<sup>(1)</sup>と言って文挾を捧げている。竹取の翁は、「この工匠達が申すことは何事だ」と首をかしげている。皇子は心ここにあらずと言つた様子で、<sup>(1)</sup>肝をつぶした気分つぶした気分で座つていらつしやる。

これをかぐや姫が聞いて、「この差し出している手紙を取れ」と言つて見ると、手紙に書いてある内容について、「皇子の君は千日余りも身分の低い工匠らといつしよになつて、同じ所に隠れていらつしやつて、<sup>(4)</sup>立派な珠の枝を作らせなさつて、『官位も与えよう』と仰せになられた。これをこの頃考えていまずと、『御使いでいらつしやるはずのかぐや姫が必要になさつたのであろう』とお聞きして、このお屋敷から報酬を受け取りたい」と申し上げて「いたたくべきものだ」と言うのを聞いて、かぐや姫、日が暮れるにつれて落ち込む気持ちきもちが、<sup>(2)</sup>笑みをたたえて、翁を呼び寄せて言うことに、「本当に蓬萊の木かと思つていました、このような本当に見苦しい嘘であつたので、とつと返してしまひなさい。」と言うと、翁が答えて、「たしかに造らせたものと聞いてしまったので、返すことはとても簡単である」と頷うなづいている。

かぐや姫の心は<sup>(ウ)</sup>すっかり晴れ晴れとして、先ほどの返歌に、

<sup>(3)</sup>本当かと聞いて見てみると言葉飾ことばかざりった玉の枝なのであつた

と言つて、珠の枝も返してしまった。

問一 (各五点) (ア)③ (イ)① (ウ)⑤

問二 (十点) 蓬萊の山から持ってきたという珠の枝が、実は身分の低い工匠にそれっぽく作らせた偽物であることがバレそうになったため。

問三 (十五点) それまで珠の枝を本物と信じており、時間が経つにつれて婚姻の申し出を断ることができない不安の感情が一気に消え去ったため。

問四 (十点) (口語訳を参照)

## 第二問

### 書き下し文

是に於いて、項王乃ち東して烏江を渡らんと欲す。烏江の亭長、船を櫂して待つ。項王に謂ひて曰く、「江東小なりと雖ども、地は方千里、衆は数十万人、亦王たるに足るなり。願はくは大王急ぎ渡れ。<sup>(1)</sup>今独り臣のみ船有り。漢軍至るも以て渡る無からん。」と。

項王笑ひて曰く、「天の我を亡ぼすに、我何ぞ渡ることを為さん。且つ籍江東の子弟八千人と、江を渡りて西せり。今一人の還る無し。<sup>(2)</sup>縦ひ江東の父兄憐れみて我を王とすも、我何の面目ありてか之に見えん。縦ひ彼言はずとも、籍独り心に愧ぢざらんや」と。

乃ち亭長に請ひて曰く、「吾公の長者たるを知る。吾此の馬に騎すること五歳、当たる所敵無し。嘗て一日に千里を行けり。<sup>(3)</sup>之を殺すに忍びず。以て公に賜はん。」と。

### 口語(現代語)訳

この場にいたって、項王は東に進み、烏江を渡ろうとしていた。烏江の宿場の長は船を準備して待っている。項王に向かって言うには、「江東の土地は小さいと言っても、土地の広さは千里四方、民衆は数十万人おり、また王として君臨するには十分な土地であります。どうか大王様、急いで渡ってください。<sup>(1)</sup>今、船を持つているものは私だけです。漢軍が到着しても渡る手段がないのです」と。

項王は笑って言うに「天が私を滅ぼそうとしているのに、どうして烏江を渡ることができようか（、いやできない）。加えて私は江東の若者八千人と烏江を渡って西に進んだ。今となっては一人として帰ってくる者がいない。<sup>(2)</sup> たとえ江東の父兄が同情して私を王としても、私はなんの面目があって彼らに顔を合わすことができようか（、いやできない）。たとえ彼らが何も言わなくても、私は一人心に恥じないことができようか」

そこで亭長に向かって言うには、「私はあなたが徳の高い人物であることはよく分かった。私はこの馬に乗って五年経つが、向かうところ敵なしであった。また一日で千里の行程も走ったことがある。<sup>(3)</sup> この馬を殺すのは忍びない。そこであなたに差し上げようと思う」と。

問一 （各五点）（ア）④ （イ）②

問二 （十点）（現代語訳を参照）

問三 （十五点） 将来のある江東の若者をたくさん死なせてしまったことで、その家族に顔向けすることができないだけでなく、王としての自分の資質を考えるとそのふがいなさに恥ずかしさを感じるため。

問四 （十点）（書き下し文を参照）

問五 （五点）③ 選択肢の中で項王が愛用し、一日に千里も走る騎乗できる選択肢は③の馬を置いて他にない。